

## 部会活動の歩み

# 歴史を継承し（つなぎ）、未来を創造する（つくる）

工藤 正人

### 1. はじめに

この度は貴協会創立70周年を迎えられ、まことに  
おめでとうございます。

今日ここに70周年をお迎えになられますのも、貴  
協会の皆様、並びに会員各社様の不断のご努力とたゆ  
まぬご研鑽、ご研究の成果と拝察いたします。

また私自身、大変若輩者にて恐縮ではございますが、  
今回のこの記念すべき特集号に寄稿させて頂くことに  
感謝申し上げますとともに、今後とも技術革新の時代  
に向かって先導的な役割を果たし、国土の発展に寄与  
され、なお一層のご躍進をとげられますようご祈念い  
たします。

### 2. レンタル業部会の活動

私がレンタル業部会に出席させて頂きましたのは  
2018年からとなります。昨年の活動においては、『建  
設機械等のレンタル契約に伴う搬入・搬出時における  
諸問題』を主点とし、それにとともなう問題意識の共有  
化、原因・対策などを議論し今後各社にて改善してい  
く事を進めてまいりました。その他にも、『西日本豪雨・  
北海道地震における災害復旧対応に関しての情報交換』、  
『部会員の近況・課題に対する意見交換』、また『今  
後のレンタル事業の発展についての協議』の場等も設  
けられ、非常に有意義な会として参加させて頂きまし  
た。

レンタル業部会においては、参加各社の業態・規模  
に関係なく共通命題があり、共に取り組み解決しなけ  
ればならない課題も多く互いに切磋琢磨し合え、協会  
全体の発展、夢のある希望のある業界形成の一肩と成  
り得る活動と存じます。

### 3. 今後の展望

リーマンショック以降強まったとされる節約志向に  
より、人々がより賢く消費するようになり、昨今の「所  
有」から「利用」へ価値観の変化が取り沙汰されるか  
なり以前から、建設業界では、工事で使用する建設機  
械を購入や保有をせず、工事期間中のみにレンタルす  
る形態が振興しております。建機レンタルのニーズは  
年々高まり、現在では建設現場で使用される建設機械  
のほとんどがレンタルといわれるまでに拡大しており  
ます。

東京オリンピック・パラリンピック関連特需も間も  
なく終息をむかえますが、2020年は単なる通過点と  
して捉え、その先の未来を見据え更なるレンタルの可  
能性と社会的存在意義を追及して参りたいと思いま  
す。また、近年の豪雨災害・土砂災害、震災復興は無  
論のこと、社会資本の整備等、レンタル業界として貢  
献できる分野は多岐に渡ると存じます。

レンタル業部会の皆様とは、今後も同業者の垣根を  
超え役職・立場にとらわれず、自由闊達に意見を交わ  
し、共に協力し合い新たなイノベーションを創出して  
参りたいと考えております。私自身、部会のこれまで  
の歴史（あゆみ）を継承し（つなぎ）、これからの未  
来を創造（つくる）一助と成れましたら幸甚です。

#### 【筆者紹介】

工藤 正人（くどう まさと）  
レンタル業部会  
（株）アクティオ  
東京支店 営業部  
副部長